



理想の教師像

第一問。「教員採用試験」の面接で、「どのような教師を目指しますか」と聞かれたとき、何と答ええますか。

予想される有力な回答の一つは、「常に子どもの傍らにいて彼らを支え、自らも研鑽を積んでいく教師」というものかと思えます。人それぞれの回答があるでしょうけれども、この答えには多くの人が賛同すると思います。ある大学の教育学部には、「師道」と刻まれた石碑が建っています。これは、子どもへの支援を直向きに行い、自らの研鑽をも怠らない、限らない教師の道をうたっているものと思われます。

教育学の分野に入り込むと、たちまちカタカナに取り囲まれ、西欧の教育学者の理念を学ぶことになります。それも大切なのですが、せっかくなら自国の言葉で言い表してみたい。そんな思いから先人の解釈を紐解くと、このような教師の姿勢は、お遍路さんが唱える「同行二人」という言葉を借りて言い表されていたり、橋田邦彦氏が「俱学俱進」と言っ

たりしていることが判ります。第二問。次の言葉は、何を意味していると思えますか。

「自らの修行をいったん止めて、周りの人々のことの方を優先して助ける人。その手助けをしないではない人」。

答えは「菩薩」です。悟りをひらくために自ら修行をしなければいけない身であるのに、その修行をいったん止め、衆生の手助けをする、してしまふ、しないではいられない修行中の人のことです。倫理で勉強した大乘仏教の鍵になるのが、菩薩です。

「菩薩」には他にもいろいろな定義がありますが、この意味でいくと、一つ目の問いの答えとかなり似ていることに気がつきます。「世のため人のため」を美徳とする美しい国、日本では、ほとんどの人が気がついていませんが、理想の教師像は菩薩とオーバーラップしています。

本当に菩薩を見たことがありません。娘の運動会の日、娘の担任の先生が中央に飛び出してきました。徒競走の最後の組。障がいのあるお子さんが、介助の方に補助されながら

走っていました。「行けるよ！最後まで行けるよ！」。退職も近いと思われるその先生は、そう叫びながら、トラックの内側から必死でそのお子さんを追いかけまします。いてもたってもいられずに、係の指導そっちのけで飛び出していらしたようでした。日頃から、何かをやり遂げる経験の少ないお子さんなのか。達成感を持たせてあげたい。先生がそう思っていたように私には感じられませんでした。「がんばれ！」学校中が一つになった一瞬でした。客席の後ろの方から、「○○ちゃん、今年はゴールできてよかったね」。そういう声が聞こえてきました。このお子さんは、

多くの人の中に生きていて、見守られながら確かに成長していました。そしてそこには、自らを全く省みない、菩薩のような先生が日々関わっていらつしやるのでしょうか。このお子さんの保護者が先生に手を合わせていたとしても、全く自然な光景です。教師が菩薩であるということは、私たちの中でそれだけ自然なことです。また、先生自身、自分が菩薩だなどと思ったこともないでしょう。

お地藏様、観音様、文殊……。いずれも菩薩です。教職の授業に臨むみなさんの姿を見ると、みんな菩薩道に就こうとしているように見えます。頼もしく思いつつ、また拝みたくなっています。

子どものために

……。よく、「子どものために死ぬるか」なんて言われますが、私はそんな教師ではありませんでした。

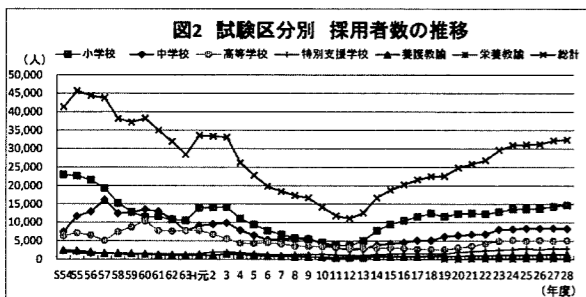
小学校の校長を退職された先生が、謙遜されながらおっしゃられた言葉です。キリスト教での自己犠牲を伴う「愛・アガペー」の意味を、遠い昔に『塩狩峠』から教わったことが頭をよぎります。先生方の世界でこのようなことが伝えられていることに、驚きとうれしさを覚えられました。話は共通の、伝説の恩師の話になりました。

新しい校舎を建てる時、旧校舎の土台のコンクリートの塊を壊すため、重機が理科の菜園を横切ることになったそうです。その時、その伝説の先生が、鑿(たがね)と金槌を

手に立ちはだかだったそうです。理科の菜園と言えども子どもが学ぶ場です。それはある種、神聖な場であり、授業は神聖な時間です。授業の始めと終わりに起立、礼をする理由の一つは、こういう意識にあるのでしよう。そのような神聖な場をキヤタビラに踏みじられるのは、許せなかつたのです。その先生は、旧校舎のコンクリートを自ら鑿で壊し、重機を通さなかつたということです。その伝説の教師が、ある日理科の

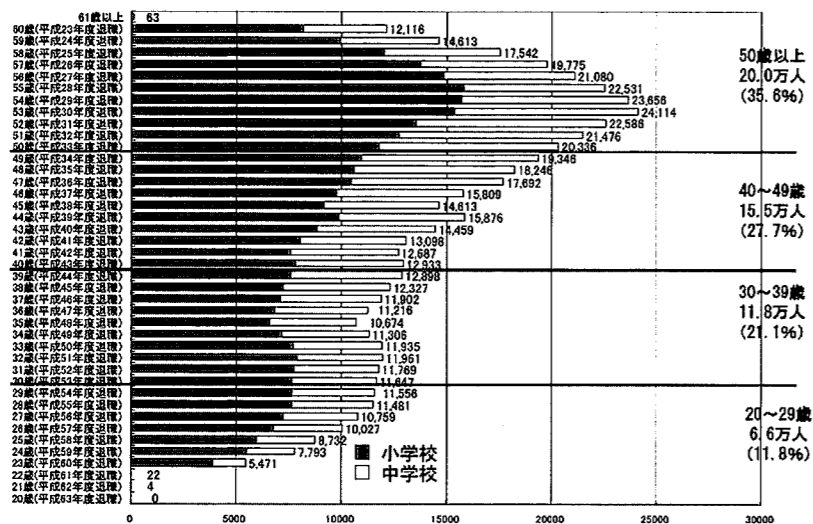
菜園に大きな穴を掘っていました。聴くと、黒土を上下で入れ替えるのだそうです。まだ小さくて足手まといになる私は、ただ作業を見つめていました。自分たちのために大汗をかいて、泥まみれになって。たいへ

んだとも、かっこいいとも思いません。真剣に勉強しなくては申し訳ない、そう思ったかも知れません。この作業は「天地返し」というもので、地下にもぐって冬越しする害虫を外気にさらしたり、肥料を均一



平成28年度公立学校教員採用選考試験の実施状況(文部科学省)より

公立小・中学校年齢別教員数(平成24年3月31日)



【小学校】354,573人 44.4歳  
【中学校】203,554人 44.3歳【合計】558,127人 44.4歳  
※平成23年5月1日現在で在職する正規教員の数

文部科学省調べ

## 教職課程の概要

化したり、連作障害を回避したりするものです。集約農業を行う日本ならではのこともありません。その伝説の教師は理科の専科の先生で、農業の盛んな地域のご出身だったようです。

## 今がチャンス

最後に現実的なお話しをしましょう。

「少子化だから教員になるのは難しいだろう。そう思っている方も多いと思います。採用者数が相当低い時期があったので、そのような認識が依然広まっているようですが、図のように、だいぶ回復しています。教員採用には子どもの数の他に、退職者数や社会全体の就職状況も影響します。退職者数はちょうど今がピークです。これから減少していくので、これからの募集定員には注視する必要があるでしょう。」

教師になるためには、文部科学省から認定を受けた教職課程教育を受け、都道府県の教育委員会に申請して教育職員免許状を取得し、自治体や各私立学校の教員採用試験に合格する、という手順をふみます。大学でどのような授業を履修するかは、教育職員免許法及び同施行規則で規定されています。

教育職員免許法では、中学校一種の教員免許状取得には、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」等であわせて五九単位以上を修得することが決められており、同施行規則でこの他に、「日本国憲法」や「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」（各二単位）を履修するといった規定もあります。

東洋大学では、学年の進行にあわせて、さまざまな科目を系統的に履修できるように、体系的なカリキュラムを準備しています。多くの学生は、所属する学科の卒業単位とは別に、教職科目を履修しなければなりません。よって、その授業負担は、履修しない学生に比べてかなり重くなります。

ます。学年が進むにつれて教員免許状の取得をあきらめてしまう学生も実際に増えてしまっています。

しかし、教育について学ぶことは、最終的に教員になるかどうかに関わりなく、人間の成長や発達について学ぶことであり、また自分が経験してきた学校教育を振り返り、その意味を再確認することにもなります。あきらめることなく計画的に履修を継続し、ぜひ多くのことを学んでほしいと思います。

以下、教職課程の概略と特徴的な事項を紹介します（学部・学科によって科目の名称や履修時期が異なるのでご注意ください）。

一年生では、教師という仕事、学校という制度はどういうものなのかを概括的に学ぶ「教職概論」と、もう少し広く教育の本質や人間の成長・発達などについて学ぶ「教育基礎論」、さらに教育制度や学校制度のあり方について学ぶ「教育制度論」、学習指導要領など教育課程について学ぶ「教育課程論」が開講されます。これらの科目を履修することで、教師をめざそうとする意思を確認するとともに、自分がめざして

いる教師という仕事、職場となる学校について基礎的なことがらを理解します。

なお、一年次終了時点で教職課程登録を行い、登録料を納めます。教師という仕事を本気でめざすのかどうか。この時点で一定の決断をしなければなりません。

二年生ではやや専門的な科目が加わります。子どもの成長や発達を心理学的な視点からとらえる「教育心理学」、教科指導（授業）以外の場面での指導について学ぶ「生徒指導論」。「教育相談」では、生徒の心に寄り添いながら指導できるカウンセリング・マインドを養います。「特別活動の理論と方法」、「道徳教育論」、「教育方法論」、「教科の指導法」など実践に近い科目も始まります。

三年生の「教科の指導法」では実際に教壇に立って生徒を指導することを想定して、授業の方法を理論的・実践的に学ぶとともに、学習指導案を作成したり、模擬授業を行ったりします。学生どうしがお互いに授業を評価しあうなかで、教師としての心構えや技術を身につけていきます。

四年生のメインは教育実習です。実際に学校現場に行つて児童・生徒の前に立ち、教師として過ごす数週間、一生の宝物です。実習中は辛くてやめたいと思つても、実習校の先生や生徒たちがみなさんを励まし力づけてくれるでしょう。教師という仕事のすばらしさを実感するのはそんな時です。

四年生の秋学期には、「学びの軌跡の集大成」と言われる「教職実践演習」を履修します。

## 介護等体験

小学校・中学校（義務教育学校）の教員免許状を取得するためには以上の各科目とは別に「介護等体験」に参加することが必要になります。本学では原則として三年次に行うことになっています。これは、特別支援学校と社会福祉施設で計七日以上の介護・介助その他の体験を行うというものです。この体験証明書は、教員免許状の交付申請時に必要なもので、長期になりますが大切に保管しておいてください。

高等学校の免許状のみを取得する

場合は「道徳」を履修したり、「介護等体験」に参加したりする必要はありませんが、どちらも行い、中・高両方の免許状を取得しておくことをお薦めします。それは、中・高両方の免許状を持っていることを教員採用試験の受験資格とする都道府県が増えていること、私立学校の場合はほぼすべてで中・高の免許状が必要とされていること、大学を卒業したあとに「介護等体験」を行うことは非常に困難であることなどが理由です。現時点で高等学校の免許状のみの取得を考えている学生も、在学中に「介護等体験」に参加しておくことをお薦めします。

「介護等体験」は特別支援学校や社会福祉施設という大学以外の場で行われるというものです。それらの学校や施設は、児童・生徒や施設利用者が学習する場であり、生きる場でもあります。また教職員や施設職員にとつては職場です。学生は、そうした場には、特別な資格もなく入っていくこととなります。「介護等体験」は児童・生徒、利用者、教職員の了解と協力があつてはじめて行うことができるということ、したがつ

て「体験をさせていただく」という気持ちを持って参加することが重要です。そして、利用している人々の人権や尊厳を最大限に尊重することなどを今からしっかりと自覚しておきましょう。多くの学生にとつて「介護等体験」は、人生観や価値観を変えるほどの、貴重ですばらしい体験となっています。

## 教職パスポート

教師への道がいまここに始まりつつあります。その道の途中で経験し学ぶことを、教師という仕事と結びつけながら記録し、自分自身の成長の糧とするために「教職パスポート」があります。ただ漠然と記録を取るのではなく、振り返りと将来を見据えつつ、しっかりと記載しましょう。

二年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検があります。教師としての適性が疑われる場合には個別指導がなされます。進路再考を勧告されることもあるので注意してください。また、四年次秋学期の「教職実践演習」の履修にはこの「教職パ

スポート」が必要となります。日頃から記載して準備しておきましょう。

## 支えてくれるもの

### ○仲間

教職の道は長くて険しいものです。目標を共有する「仲間」と共に進むのが良いでしょう。励まし合い、時には批判しあうことのできる「仲間」は、振り返ったとき、掛け替えない財産になっています。教員採用試験の二次試験で集団討論があります。その練習をする上でも「仲間」は必要です。

### ○教職支援室・準備講座・模試

東洋大学では、教師をめざす学生のためにさまざまな講座や模試などを民間企業とタイアップして実施するほか、教職資料室（白山キャンパス三号館一階）や各キャンパスに教職支援室を置いて、学生の学修や教員採用試験受験のサポートを行っています。ぜひこうしたリソースも最大限に利用してください。

### ○学校ボランティア

在学中から学校現場に行つてさま

さまざまな体験をしておくことも、教師をめざす上で非常に有益です。「学校サポーター」や「学校インターン」などの名称でチャンスが待っています。現場に入って児童・生徒とふれあい、現職教員から多くのアドバイスが得られる貴重な機会です。自分が教師に向けているかを考える機会にもなるでしょう。

漠然とした教師へのあこがれや、「免許状だけ取っておこう」という気持ちでは、教職課程を履修しても長続きはしません。常に学び続ける決意と、自分と対話しつつ、計画的に準備をし、こなしていくことが必要です。

教師になりたいという熱意を持続させること、そのためにも多くの仲間と語り共に学ぶこと、そして希望を失わないことが教師への道を切り拓いていく力になります。

さあ、教師をめざして、はじめの一步を踏み出しましょう。

本稿は、前教職課程運営委員長・藤本典裕先生のご協力をいただいてまとめました。感謝申し上げます。

表 教職課程の4年間のスケジュール(例)

	主な履修科目等	内容
1年次	春学期 教職概論 教育基礎論 日本国憲法、体育 外国語	ガイダンス 4月 「教職に関する科目」、「教科に関する科目」、 「教育職員免許法施行規則」66条の6に規定 された科目を1～3年生のうちに履修
	秋学期 教育課程論 教育制度論 情報機器の操作	「教職パスポート」の配布・説明会 ↓ 教職課程登録料の納入
2年次	春学期 教育心理学 教育方法論 道徳教育論 特別活動の理論と方法 ○科教育論Ⅰ	
	秋学期 生徒指導論 教育相談 ○科教育論Ⅱ	介護等体験第1回説明会 介護等体験第2回説明会 ↓ 介護等体験費用の納入 ↓ 「教職パスポート」中間点検
3年次	春学期 ○科指導法Ⅰ 【介護等体験】	教育実習事務手続説明会 (実習校内諾) 介護等体験第3回説明会 ↓ 介護等体験 (日誌・体験証明書)
	秋学期 ○科指導法Ⅱ	「教員採用試験対策講座」 「模擬試験」 ※教育実習の 参加条件があるので注意
4年次	春学期 【教育実習】	教育実習直前ガイダンス ↓ 教育実習料の納入 ↓ 教員採用試験 ↓ 教育実習 (実習日誌)
	秋学期 教職実践演習	申請料(埼玉県) ↓ 教育職員免許状一括申請説明会 ↓ 卒業式 学位記と共に教育職員免許状の交付

※この表は、理工学部での教職課程を基に参考として示したものです。実際の履修は、学部や個人によって異なります。各学部の『履修要覧』『教育職員免許状取得までの流れ』を参照ください。各掲示やToyoNet-ACEでの案内に留意し、締切を守ること。